

カボチャ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	べ と 病	疫 病	菌 核 病	炭 疽 病	苗 立 枯 病	つ る 枯 病	う ど ん こ 病	白 斑 病	軟 腐 細 菌 病
パイオキーパー水	生物農薬	-		*b	-									◎
マスタピース水	生物農薬	-		1	-									◎
Zボルドー水	無機	M1		-	-									◎
イオウFL	無機	M2		-	-						◎			
ハッパ乳	他	NC		-	-						◎			
フルピカFL	A P	9		1	4						◎			
サルバトールME液	DMI	3		1	3							露		
スコア顆水	DMI	3		3	3						◎			
トリフミン水	DMI	3		1	5						◎			
ラリー水	DMI	3		1	3						◎			
ストロビーFL	Q o I	11		1	3	◎					◎			
アフエットFL	アミド	7		1	3						◎	◎		
ポリオキシンAL溶	抗生物質	19		7	3						◎	◎		
スミレックス水	ジカルボキシミド	2		14	3			◎						
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		1	5								◎	
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		1	3								◎	
ジマンダイセン水	有機硫黄	M3		21	2	◎	◎		◎		◎			
ペンコゼブ水	有機硫黄	M3		21	2	◎	◎							
キノンドー水40	有機銅	M1		7	3	◎			◎					
サンヨール乳	有機銅	M1		1	4							◎		
アリエッティ水	有機リン	P7		1	3	◎	◎							
オーソサイド水80	他	M4		*a 14	5					◎				
ダコニール1000FL	他	M5		7	3	◎			◎			◎	◎	
ベルコートFL	他	M7		7	4						◎			
モレスタン水	他	M10		3	3						◎			
ライメイFL	他	21		1	4	◎	◎							
ランマンFL	他	21		1	3	◎	◎							

カ
ボ
チ
ャ

カボチャ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	べと病	疫病	菌核病	炭疽病	苗木立枯病	つる枯病	うどんこ病	白斑病	軟腐細菌病
テーク水	DMI・有機硫黄	3・M3		21	2	◎	◎					◎		
シグナムWDG	QoI・アミド	11・7		1	3							◎		
アミスターオブテイFL	QoI・他	11・M5		7	3	◎	◎					◎		
パンチョTF顆水	アミド・DMI	U6・3		1	2							◎		
フオリオゴールドFL	アミド・他	4・M5		7	3	◎	◎							
ベジセイバーFL	アミド・他	7・M5		7	3						◎	◎		
リドミルゴールドMZ顆水	有機硫黄・アミド	M3・4		30	2	◎	◎							
ショウチノスケFL	他・AP	U13・9		1	2							◎		
ポリベリン水	他・抗生物質	M7・19		7	3						◎	◎		
フェスティバルC水	他・無機	40・M1		3	3	◎	◎							
カンパネラ水 ベネセット水	他・有機硫黄	40・M3		21	2	◎	◎							
カーニバル水	他・他	40・M5		7	3	◎						◎		
プロポーズ顆水	他・他	40・M5		7	3	◎	◎					◎		
バトファイター顆水	他・他	27・40		3	3		◎							

*a: 播種後～2～3葉期まで *b: 発病前～発病初期
露: 露地栽培

カ
ボ
チ
ヤ

カボチャ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (回 数)	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	カ ボ チ ヤ ミ バ エ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ネ キ リ ム シ 類	ウ リ ハ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ケ ラ	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
カスケード乳	I GR	15		1 3												
トリガード液	I GR	17		1 3				◎								
ネマトリンエース粒	殺線虫	1B		*c 1												◎
カネマイトFL	殺ダニ	20B		7 1											◎	
サンマイトFL	殺ダニ	21A	劇	3 2		◎										
ニツラン水	殺ダニ	10A		1 2											◎	
モベントFL	殺ダニ	23		7 3	◎	◎									◎	
フェニックス顆水	ジアミト [®]	28		1 2						◎						
ベネピアOD	ジアミト [®]	28		1 3				◎		◎						
ディアナSC	スピノシ [®]	5		1 2						◎						
アドマイヤー1粒	ネオニコチノイド [®]	4A		*b 1		◎	◎									
アドマイヤー顆水	ネオニコチノイド [®]	4A	劇	*f 2	◎											
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	ネオニコチノイド [®]	4A		1 2 *e 1	◎ 灌	◎										
アルバリン粒 スタークル粒	ネオニコチノイド [®]	4A		*b 1	◎	◎										
ダントツ溶	ネオニコチノイド [®]	4A		3 3	◎				◎			◎				
ダントツ粒	ネオニコチノイド [®]	4A		*b 1	◎											
モスピラン顆溶	ネオニコチノイド [®]	4A	劇	1 2	◎				◎			◎				
モスピラン粒	ネオニコチノイド [®]	4A		*d *b 1	◎ ◎											
アグロスリン乳	ピレスロイド [®]	3A	劇	1 5	◎		◎			◎						
アディオン乳	ピレスロイド [®]	3A		1 5	◎											
ロディー乳	ピレスロイド [®]	3A	劇	3 3	◎											
アフーム乳	マクロライド [®]	6		1 2				◎								
スミチオン乳	有機リン	1B		14 3	◎		◎									
ダイアジノン粒5	有機リン	1B		*a 21 4	2 4						◎				◎	
マラソン乳	有機リン	1B		1 5	◎						◎					◎
ウララDF	他	29		7 2	◎											
コテツFL	他	13	劇	1 2				日								
コルト顆水	他	9B		1 3	◎	◎										

*a: 播種時又は定植時 *b: 定植時 *c: 定植前 *d: 播種時
 *e: 定植前日～定植時 *f: 収穫前日まで (但し露地栽培については着果後から)
 日: 日本かぼちゃにミナミキイロアザミウマでの登録 ト: トマトハモグリバエ
 灌: セル成型育苗トレイ又はペーパーポットに灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

カ
ボ
チ
ヤ

カボチャ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	苗床期 ～生育期	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスターオブティフロアブル 1000倍 アリエッティ水和剤 400～800倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 	
疫病	定植前 生育期	<ul style="list-style-type: none"> 排水不良の圃場での栽培をさける。 発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アリエッティ水和剤 400～800倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 	
うどんこ病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 イオウフロアブル 500倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 トリフミン水和剤● 3000～5000倍 フルピカフロアブル 2000～3000倍 	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
モザイク病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> アブラムシ類を防除する。 	
アブラムシ類	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アデオン乳剤 2000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍 	
コナジラミ類	定植時 生育期	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤を植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アドマイヤー1粒剤 2g/株 発生を見たら次の薬剤を散布する。 サンマイトフロアブル 1000～1500倍 	
ウリハムシ	生育期(成虫)	<ul style="list-style-type: none"> 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍 	
ネコブセンチュウ	播種前 定植前	<ul style="list-style-type: none"> 床土は消毒する(土壌消毒の項参照)。 1. 作付予定地で、前作物に寄生があったところでは土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を施用し、土とよく混ぜる。 ネマトリンエース粒剤 20kg/10a 	